国語科における
思考力・判断力・表現力等の育成に関する実践研究
―４地方での研修講座開催を通して―

専門研修課　指導主事　辻内　髙政

【要旨】　小学校では，今年度から新学習指導要領が全面実施された。今回の学習指導要領改訂は，OECD の PISA 調査や全国学力・学習状況調査の結果を受けて，思考力・判断力・表現力等の育成を基本的な考え方にしている。当センターでは平成22年度から思考力・判断力・表現力等を育成するための指導力向上を目指した小学校国語科教育研修講座を実施しているが，実際に授業を行い、子どもたちに思考力・判断力・表現力等の育成を図るための指導，実践の交流を行う機会がなかった。そこで県内４地方の小学校での研究授業を通して研修する機会を設け，各地方で実態に応じた研究授業を行い思考力・判断力・表現力等の育成のための指導法等について研修を深めることができた。

【キーワード】　地方開催，思考力・判断力・表現力，新学習指導要領

１　はじめに

（１）新学習指導要領の全面実施から

新学習指導要領が今年度から全面実施となった。その第１章総則の第一の項に「基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ，これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力その他の能力をはぐくむ」とある。

また，小学校学習指導要領解説国語編の第１章総説１改訂の経緯には平成20年１月の中央教育審議会答申による学習指導要領改善の基本的な方向性が示されており，そこにも「思考力・判断力・表現力等をはぐくむために，観察・実験，レポートの作成，論述など知識・技能の活用を図る学習活動を充実させる」と記されている。

さらに，３国語科改訂の要点（３）言語活動の充実には「各領域においては，基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を探求することのできる国語の能力を身に付けることができるよう，内容の（２）に日常生活に必要とされる記録，説明，報告，紹介，感想，討論などの言語活動を具体的に例示している。」とある。

これらのことから，思考力・判断力・表現力等の育成を目指す国語科学習指導法の研修に改善が求められている。

（２）教育センター学びの丘の取組

学習指導要領の改訂をうけ，平成22年度から小学校国語科教育研修講座において，思考力・判断力・表現力等の育成を目標に取り組んできた。

昨年の受講者のアンケートには，ひとつの学年や教材だけでなく多様な研修を希望する声があった。また，地域の状況や課題に応じた研修内容，研修形態の工夫も課題として挙げられていた。さらに思考力・判断力・表現力等の育成について実際の授業でどのようにすればよいかを示す必要性があると考えた。

そこで,これらの課題を解決するため，平成23年度から４地方で研修講座を実施し本研究を進めることとした。

２　研究の概要

（１）目的

小学校国語科において思考力・判断力・表現力等を育成するための実践的な指導のあり方について，４地方で実施した研修講座を通して考察する。

（２）方法

教育支援事務所や市町村教育委員会と連携し，４地方の小学校を会場に研究授業を中心とした小学校国語科教育研修講

座を実施した。

研修講座の実施にあたり，以下の２点について留意した。

ア　研究授業について

各地方や学校の課題に沿った取組にするため，教育支援事務所及び市町村教育委員会と連携し，各地方，市町村及び小学校の実態を踏まえ,研究授業を行った。

研究授業は思考力・判断力・表現力等を育成するための実践的な指導のあり方について研究するための提案授業として位置づけ,その視点で研究協議を行った。

教材研究については，当センター指導主事を中心に教育支援事務所及び市町村教育委員会の指導主事が助言を行った。

イ　研修講座の運営について

受講者が参加しやすいよう午後開催とした。また，各講座の定員を20人とし，小グループで率直な意見交流が行えるように配慮した。

３　研修講座の実際

（１）Ａ地方での研修講座

Ａ地方では11市町村から18人が受講し，Ａ教育支援事務所指導主事が1人，４市町村教育委員会指導主事４人が参加した。

また，研究授業は実施校の教職員も参観した。Ａ地方では会場校の要望により，２人の教員が研究授業を行った。１年生　くらべてよもう「じどう車くらべ」と３年生　例をあげて説明しよう「〇〇〇のひみつを教えます」の二つの単元及び教材である。

ア　研究授業について

（ア）１年生　くらべてよもう「じどう車くらべ」

◆本時の目標

「そのために」という接続語を用い，前後の文のつながりを考える。

◆本時の展開（8/１２）

学習活動	指導上の留意点	評価
１．本時のめあてを知る。		
学習課題	「そのために」でつなげられる「つくり」をえらぼう。	
２．例文を見て，「しごと」と「つくり」が「そのために」の接続語でつながれていることを確認する。 ３．「つくり」を選材する。 （思考力・判断力） ４．「しごと」と「つくり」を発表する。 ５．選材した「つくり」を工夫して書く。 ６．次時の学習内容を知る。	・「そのために」を用いた例文を提示する。 ・「しごと」に合った「つくり」を選ぶことに気づかせる。 ・自分の書いた「つくり」の中で，どれが一番「しごと」と合っているのかを考えさせる。 ・「しごと」に合った「つくり」になっているかという観点で聞き合えるようにする。 ・「しごと」と「つくり」が合っていない文を例に挙げ，どのようにすればつながりができるのか考えさせる。合うようにするためには,「つくり」を説明する文が必要なことに気づかせる。 ・「しごと」と「つくり」が合っていない子どもには，つながるように説明する文を書かせる。 ・「しごと」と「つくり」が合っている子どもには，さらによく分かるように工夫できないか考えさせる。 ・下書きをすることを伝える。	【書】「そのために」という接続語を用い，「しごと」に合った「つくり」を考えている。

◆協議の視点

選材する場面で，子どもに思考・判断をさせるための発問の仕方。

本単元で児童は自動車が「どんな仕事をするのか」と「どんなつくりになっているのか」の二つの事柄を「そのために」という接続語を使って，つなぐという文の構成を教材の内容を読み取る活動を通して学習している。そこで，指導者はこれまでの学習を生かして「語と語や文と文との続き方に注意しながら，つながりのある文を書くこと」（学習指導要領のＢ書くこと）についての活動で，児童に思考力・判断力・表現力等を育成しようと考えた。

なお，会場校では学年の発達段階に応じた**図１**のようなワークシート集を使用している。

本時は教材文を読み取った後，自分で選んだ自動車について調べ，図鑑づくりをする活動である。指導案の評価の項目にもあるが，「そのために」という接続語を用い，「しごと」に合った「つくり」を児童が考え表現する学習の応用の活動である。指導者は本時において，ワークシートを使用して児童の指導を行った。

図１　ワークシート集（表紙）

（イ）３年生　例をあげて説明しよう「○○○のひみつを教えます」

◆本時の目標

「中」の内容をまとまりごとに段落分けし，接続語を用いながら記述することができる。

◆本時の展開　（６／８）

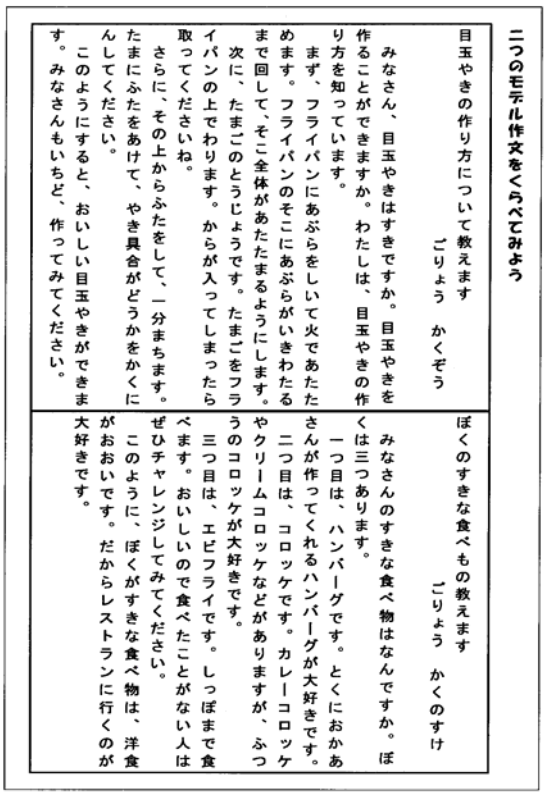
学習活動	指導上の留意点	評価
１．本時のめあてを知る。		
学習課題　まとまりを考え，段落に分けて文章を書こう。		
２．分かりやすい説明の仕方についてのポイントを確認する。	・これまでの学習（モデル作文の構成）で学んだことを想起させる。 **【ポイント】** ①「はじめ」「中」「おわり」の３つのまとまりに分かれていた。 ②「中」の例は一段落一事項で書かれていた。 ③接続語を使って書いていた。	
３．書き方を理解し，ワークシートに書く。	※本時では②と③を意識して書くことをおさえる。	【書】内容のまとまりごとに段落分けをし，文章を書いている。
４．書いた文章を読み直し，訂正する箇所があれば直す。	・上記②と③のポイントをおさえて書けているか，確かめさせる。 ・書き上がった児童には，ポイントにそって書けているかどうか，他のグループの児童と読み合わせる。	【言】適切な接続語を用いて文章を書いている。
５．書いた文章を発表する。	・評価の観点に着目して聞くようにさせる。	
６．次時の学習内容を知る。	・原稿用紙に清書しグループで読み合わせることを伝える。	

◆協議の視点

単元のねらいを達成するために，効果的なワークシートであったか。

この学習に入る前に児童は，「すがたをかえる大豆」の学習において，「はじめ・中・終わり」の文章構成，一段落一事項で書くことのわかりやすさ，接続語の正しい使い方について教材の内容を読み取る活動を通して学習している。そこで，指導者はこれまで学習したことを応用して，児童に「書くこと」の活動の中で思考力・判断力・表現力を育成しようと考えた。

まず，指導者は次の二点に留意している。一つは，児童が誰に対して文章を書くのかという相手意識と何のために書くのかという目的意識をしっかりもたせること。二つは，文章を書く題材は，教科書に提示されているものではなく，自分が興味をもっているものであることである。さらに，本時では，児童が書き方について，工夫ができるように**図２**のように２つのモデル作文を準備し比較を行った。なお，３年生の学習においても学年の発達段階に応じたワークシート集を使用した。



二つのモデル作文をくらべてみよう

目玉やきの作り方について教えます　　ごりょう　かくぞう

みなさん、目玉やきはすきですか。目玉やきを作ることができますか。わたしは、目玉やきの作り方を知っています。

まず、フライパンにあぶらをしいて火であたためます。フライパンのそこにあぶらがいきわたるまで回して、そこ全体があたたまるようにします。

次に、たまごのとうじょうです。たまごをフライパンの上でわります。からが入ってしまったら取ってくださいね。

さらに、その上からふたをして、一分まちます。たまにふたをあけて、やき具合がどうかをかくにんしてください。

このようにすると、おいしい目玉やきができます。みなさんもいちど、作ってみてください。

ぼくのすきな食べもの教えます　　ごりょう　かくのすけ

みなさんのすきな食べ物はなんですか。ぼくは三つあります。

一つ目は、ハンバーグです。とくにおかあさんが作ってくれるハンバーグが大好きです。

二つ目は、コロッケです。カレーコロッケやクリームコロッケなどがありますが、ふつうのコロッケが大好きです。

三つ目は、エビフライです。しっぽまで食べます。おいしいので食べたことがない人はぜひチャレンジしてみてください。

このように、ぼくがすきな食べ物は、洋食がおおいです。だからレストランに行くのが大好きです。

図２　ワークシート集（一部）

イ　アンケートから

Ａ地方での講座終了後の研修内容（研究授業・研究協議）に対する受講者の評価は**表１**のとおりであった。

表１　Ａ地方での研修内容に対する評価

	Ａ	Ｂ	Ｃ
研究授業	１２	３	０
研究協議	６	９	０

Ａ：研修内容はあなたの期待や必要としていることに十分あっていた

Ｂ：研修内容はあなたの期待や必要としていることにあっていた

Ｃ：研修内容はあなたの期待や必要としていることにあまりあっていなかった

表１からは，研究授業に対する評価が高い。これは受講者が授業研究の機会を得たいと感じていると考える。

また，次のような感想が見られた。

＊（両学年とも）子どもたちに思考させる際にキーワードになる言葉があり，１年生は「つくり」「しごと」「そのために」の三点であった。子どもたちも三点については理解しているようであり,先生も強調されていると思った。３年生は接続語を使うためのワークシートがよいと思った。みんながスムーズに書き始められるのは，ワークシートが使いやすいからだと思った。

＊それぞれの学年のめあてに合った工夫されたワークシートを使うことで，子どもたちはよく書けていた。すばらしい取組を見せていただきました。

＊「書く」ということをテーマにして追究されてきたことがよくわかる指導案と授業でした。１年生と３年生の授業に系統性が感じられて，学校全体での取組がよくわかる授業でした。ワークシート，指導案の書き方等を参考にさせていただき明日からの実践に取り入れたいと思います。

＊単元の初めに学習の流れをつかませ，一つの単元が終わるとワークシート集として，この学習をふり返ることができるのはよいと思った。

アンケートにあるように，Ａ地方の講座では思考力・判断力・表現力等を育成するための指導について学年に応じて工夫されたワークシート集の取組についての評価が高かった。思考力・判断力・表現力等を育成するための過程にそって，ワークシートが作成されており，ワーク

シート集を使用することで，児童が学習の見通しをもつことやふり返りをすることを容易にしていると考える。また，指導者が学校全体でワークシート集の検討を行えば１～６学年の系統的な学習を見通した指導ができると考える。

また，次のような感想も見られた。

＊思考力・判断力・表現力については今まで意識を強くしていなかったです。特に系統的なものについては，こんな実践もあるのかと思いました。

＊思考力・判断力・表現力という部分はすぐには成果が見えにくく，大切だとは思いつつも取組難いところがある。

これらの感想からは，思考力・判断力・表現力等の育成について具体的に取り組むための共有の難しさがあるのではないかと考えられる。

（２）Ｂ地方での研修講座

Ｂ地方では３市町村から12人が受講し，Ｂ教育支援事務所指導主事が１人，市町村教育委員会指導主事１人が参加した。また，研究授業には実施校の教職員も参観し，全員で30人余りが研究授業を参観した。Ｂ地方では４年生担任の教員が，説明のしかたについて考えよう「アップとルーズで伝える」の単元及び教材で研究授業を実施した。

ア　研究授業について

◆本時の目標

接続語やキーワードを手がかりに，正しい順番を探ろうとすることができる。

◆本時の展開

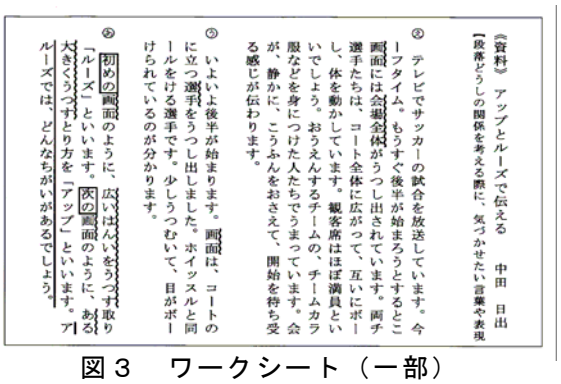
学習活動	指導上の留意点	評価規準【方法】
１．めあてを知る。 順番をならびかえよう。 ２．音読する。 ３．個人で順番を考える。 ４．個人で話したことをもとにグループで並び替えをする。 ５．並び替えた順番を発表する。 ６．意見を一つにまとめる。 ７．正しい順番を知る。	・接続語やキーワードを手がかりに考えさせる。 ＜思考力・判断力の育成を図る＞ ・グループごとに画用紙に書かせたものを黒板に貼り分類する。 ・同じところや違うところを取り上げ，理由を発表させる。 ＜表現力の育成を図る＞ ・教科書を配り筆者の書いた順番を知らせ，これからその意図を考えていくことを伝える。	接続語やキーワードを手がかりに，正しい順番をさぐろうとしている。【発言・ノート】

◆協議の視点

本時の活動が，思考力・判断力・表現力等の育成を図るものになっていたか。

この学級では，児童が自分の考えがもてるように考える時間を確保している。また，二人で相談するペア学習も取り入れている。そして，児童が筋道を立て考えることができるよう根拠となる理由を書いたり発表したりするよう指導している。

本単元では「アップ」と「ルーズ」を対比的に述べているという教材の特徴に着目し，児童に６段落までの文章を段落ごとに別々に提示する（**図３**）。指導者は，児童がそれぞれの根拠を基に教材を正しい順序に並べ替える活動を通して，思考力・判断力・表現力等の育成がなされると考えている。


《資料》 アップとルーズで伝える　中田　日出
【段落どうしの関係を考える際に、気づかせたい言葉や表現

④ テレビでサッカーの試合を放送しています。今ーフタイム。もうすぐ後半が始まろうとするとこ画面には会場全体がうつし出されています。両チ選手たちは、コート全体に広がって、互いにボールし、体を動かしています。観客席はほぼ満員といいでしょう。おうえんするチームの、チームカラ服などを身につけた人たちでうまっています。会が、静かに、こうふんをおさえて、開始を待ち受る感じが伝わります。

⑤ いよいよ後半が始まります。画面は、コートの に立つ選手をうつし出しました。ホイッスルと同ールをける選手です。少しうつむいて、目がボけられているのが分かります。

⑥ 初めの画面のように、広いはんいをうつす取り「ルーズ」といいます。次の画面のように、ある大きくうつすとり方を「アップ」といいます。アルーズでは、どんなちがいがあるでしょう。

図３　ワークシート（一部）

研究授業では，個人→グループ→全体と考え方の違いについて話し合いを広げていった。全体で話し合うときには，根拠がわかりやすいように掲示用の教材文も用意されていた。

イ　アンケートから

Ｂ地方での講座終了後の研修内容に対する受講者の評価は**表２**のとおりであった。

表２　Ｂ地方での研修内容に対する評価

	Ａ	Ｂ	Ｃ
研究授業	9	1	0
研究協議	8	2	0

Ａ：研修内容はあなたの期待や必要としていることに十分あっていた

Ｂ：研修内容はあなたの期待や必要としていることにあっていた

Ｃ：研修内容はあなたの期待や必要としていることにあまりあっていなかった

表２からは，研究授業及び研究協議に対する評価が高い。これは受講者が授業研究の機会を得たいと感じていると考える。

研究授業については，次のような感想が見られた。

＊一人一人がしっかりと意見を持ち，班の話し合いに参加できる手立てができていた。理由をきちんと発表できていた。

＊根拠を明らかにしながら意見を述べたり，キーワードになる言葉を見つけたり，示したりしながら文を読んでいくと，単元の終わりの記事を書くことや高学年の説明文の授業にもつながっていくと感じた。

＊本文を正しい形に並べ替えるという単元への入り方は興味深かった。子どもたちが何を理由に文の前後を判断しているのか，指示語が的確につかめているのか見ることができた。

＊個人で並べ替えたものを班の仲間にわかるように伝えるには思考力，表現力がいる。また，友だちの意図をしっかり考えて聞くには判断力が必要だと思う。

受講者からは，教材文を段落ごとにばらばらにして提示し，それを正しい形に並べ替える活動を通して，児童が個々の考えの根拠を話し合う活動が思考力・判断力・表現力等を育成するための指導につながる取組であるという評価が高かった。児童が個人→グループ→全体と話し合いを広げていく過程で，自分と友達の考えを比較，検討し思考力・判断力・表現力等の育成を十分に行うことができると考える。

また，次のような感想も見られた。

＊思考力・判断力・表現力を育成する大切さを改めて学びました。受講者の指導方法等の交流については，評価する記述が見られたが，思考力・判断力・表現力等を育成するための指導については交流の難しさを感じた。

この感想から，思考力・判断力・表現力等の育成について指導の交流の難しさがあると考えられる。

（３）Ｃ地方での研修講座

Ｃ地方では，３市町村と特別支援学校１校から11人が受講（１人が中学校教員）し，Ｃ教育支援事務所指導主事が１人，市町村教育委員会指導主事１人が参加した。また，研究授業には実施校の教職員も参観し，全員で30人余りが研究授業を参観した。Ｃ地方では５年生担任の教員が，説明のしかたについて考えよう「天気を予想する」「グラフや表を引用して書こう」の単元及び教材で研究授業を実施した。

ア　研究授業について

◆本時の目標

本文とグラフの対応から，筆者が引用したグラフの意図について考えることができる。

◆本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価基準
つかむ	1．前時までの学習を振り返る。 2．学習課題をつかむ。 グラフを使った筆者の目的を考えよう。	・表を示した意図やその効果についてを想起させ，筆者の伝えたい内容が表でわかりやすくなったことを押さえ，本時のねらいにつなげる。	・筆者がグラフを引用した意図について読み取ることができたか。 B．おおむね満足できる ・筆者が引用したグラフについて，児童の発言内容または記述が以下の時。 児童の発言及び記述例 「１年ごとの発生回数がばらばらだから，天気の予想がむずかしい。」 「天気を予想するのがむずかしいことを表すグラフになっている。」 「年ごとの発生件数を見ると，読者に天気の予想がむずかしいということを伝えられる。」
ふかめる	3．引用されているグラフをみて，どのような印象であるかを考える。 4．グラフから読み取れる内容を考え，筆者が文章でどのように説明しているのかを読む。 5．筆者がグラフを示した意図について考える。 筆者はどのような目的でこのグラフを使ったのだろう。	・グラフを提示し，視覚的な理解のしやすさや，情報量の多いグラフについての印象を考えさせる。 ・グラフからどのようなことが読み取れ，それを筆者はどのような文で説明をしているのかに注目させる。 手立て ・何を表しているのかを読み取れない児童のために，次のことを行う。 ①表題の説明 ②棒グラフの説明	
まとめる	6．平均値だけのグラフと引用されているグラフを比較し，筆者の意図を考える。 ※筆者の記述通りのグラフを示し，引用されているグラフと比較することで，その意図を考えやすくする。 7．ペア学習を通して，友達と考えを交流し自分なりの考えを持つ。	手立て ①平均だけで作成した棒グラフと筆者が示したグラフとの違いから，その意図に迫る。 ②平均としてまとめてしまう利点と，逆に消えてしまう情報があることに気づかせ，その意図に迫る。 ③筆者の伝えたいことは何かを考えさせ，その意図に迫る。 ・発生回数が増えてきていることを平均として強調した文章であることに気づかせる。 ・年によって変化の激しさは何を意味するのかを考えさせる。 ・グラフを使った説明の効果を確かめさせる。	「１年ごとの発生回数をのせることで，突発的な天気の変化がたくさんあることがわかる。」 「年間による変化が一定ではないから，天気の予想はむずかしいということがわかる。」 「１年の中でも突発的な発生件数が多くあり，天気を予想することがむずかしいことがわかる。」
つなぐ	8．筆者が示したグラフを使うことの目的についてまとめる。		

◆協議の視点
①本時の発問，指示（手立て）が，目標に迫るためのものであったか。
②子どもの学習活動が，思考力・判断力・表現力等を育むものであったか。

本教材は今回の学習指導要領改訂に伴う新教材である。指導者は，本教材を次のように捉えている。「表・写真・図・グラフ等の資料を用いて効果的に伝える工夫がされている。文章だけでは読み手が具体的なイメージをもちにくいものについて，資料で確かめながら読ませたり，効果的な資料によって説得力をもたせたりしている。特に図表・グラフの効果について，上記のような意味を児童が発見することができれば，社会科，算数科，理科などの学習の広がりや，情報があふれている現在の生活において必要なものの見方や思考につながるのではないか。」

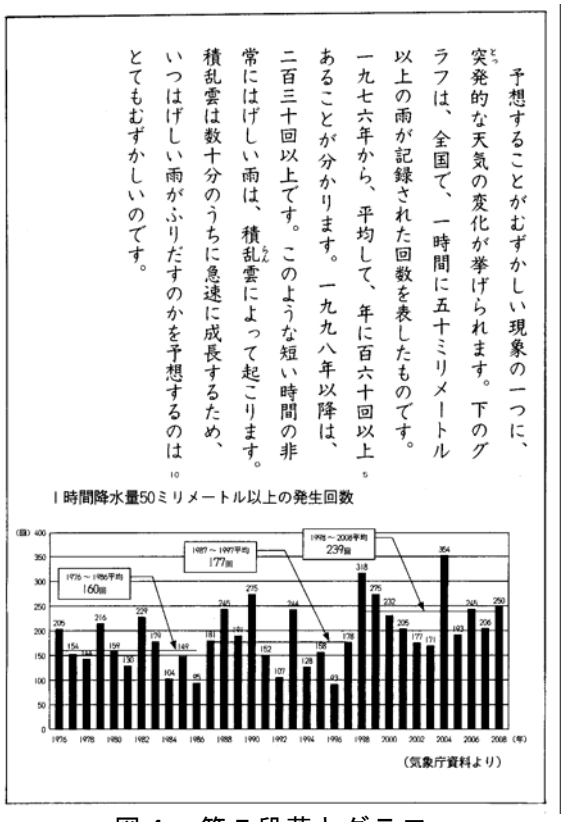

予想することがむずかしい現象の一つに、突発的な天気の変化が挙げられます。下のグラフは、全国で、一時間に五十ミリメートル以上の雨が記録された回数を表したものです。一九七六年から、平均して、年に百六十回以上あることが分かります。一九九八年以降は、二百三十回以上です。このような短い時間の非常にはげしい雨は、積乱雲によって起こります。積乱雲は数十分のうちに急速に成長するため、いつはげしい雨がふりだすのかを予想するのはとてもむずかしいのです。

図４　第５段落とグラフ

そこで本時において指導者は，①資料が何を表しているのかを読むこと，②それを文章と対応させること，③資料について文章ではどのように解説しているのかを読むこと，④資料があることで説得力が増していることを確かめた。これらのことに重点をおいて学習することにより，筆者の意図や表現の工夫について考え，文章以外の資料の重要性や説明の工夫について児童が理解する機会になると考えている。

具体的には，**図４**の文章の下のグラフは，何のためにあるのか，ひと目でわかりにくい。なぜ，この場所にあるのかを児童に考えさせることで思考力・判断力・表現力等が育成されると考えた。その際，指導者の作った10年ごとに降水量をまとめたグラフと比較をさせる等指導を工夫した。

イ　アンケートから

Ｃ地方での講座終了後の研修内容に対する受講者の評価は**表３**のとおりであった。

表３　Ｃ地方での研修内容に対する評価

	Ａ	Ｂ	Ｃ
研究授業	7	2	0
研究協議	8	1	0

Ａ：研修内容はあなたの期待や必要としていることに十分あっていた
Ｂ：研修内容はあなたの期待や必要としていることにあっていた
Ｃ：研修内容はあなたの期待や必要としていることにあまりあっていなかった

表３からは，研究授業及び研究協議に対する評価が高い。これは受講者が授業研究の機会を得たいと感じていると考える。

研究授業については，次のような感想が見られた。

＊新教材を使っての実践を公開していただき，大変参考になりました。新教材の扱いには，大変頭を悩ませていたので本校の研修にいかしたいと思います。
＊グラフを自作され，そこから考えさせる方法は児童にとって大変わかりやすかったと思います。
＊説明文は「書くこと」を含め，単元として扱われることが多い。グラフ，表，写真等を活用して書かせるが，なかなかうまく関係づけられない。今日のよ

うな授業をすれば，グラフや表等を用いて伝える力を高められると思った。

＊発問や手立て等視点を明らかにして参観させてもらったので，工夫や改善点に注目することができた。児童一人一人が考える（意見を持つ）ことができるようになるための手立てとして，自作のグラフを教科書のグラフと比較させていたのが印象的でした。

受講者からは，児童一人一人に考えさせるための手立てとして，自作のグラフと教科書のグラフを比較させたことについての評価が高かった。

また，思考力・判断力・表現力等を育成するための手立てや評価基準が指導案に具体的に提示されており，大変分かりやすかった。

次のような感想も見られた。

＊研究協議では，二つの視点からグループで思考力・判断力・表現力にしぼって話し合ったが，対比するグラフが出てきたときの（指導者による）ゆさぶり等気がつかなかったことがたくさんあり勉強になりました。また，各校の思考力・判断力・表現力等の育成についての取組も大変参考になりました。

（４）Ｄ地方での研修講座

Ｄ地方では，５市町村から18人が受講（３人が中学校教員）し，Ｄ教育支援事務所指導主事が１人，市町村教育委員会指導主事１人が参加した。また，研究授業には実施校の教職員も参観し，全員で40人余りが研究授業を参観した。Ｄ地方では５年生担任の教員が，理由づけを明確にして説明しよう「グラフや表を引用して書こう」の単元及び教材で研究授業を実施した。

ア　研究授業について

◆本時の指導（３／５時）

自分の選んだ資料を適切な表現で説明・助言し合い，自分の考えが伝わるように「なか」の文章を書くことができるようにする。

◆本時の展開

学習活動	指導上の留意点	評価の視点（方法）
１．本時のめあて，学習の流れを確かめる。	４つのポイントを押さえ，資料を使った書き方について友達と二人組で交流し，その後「なか」の文章を書くことを伝える。	（思考力・判断力・表現力等の育成ポイント）
２．二人組で交流する。 １回目にＡ→Ｂへ５分間の交流をする。 ２回目にＢ→Ａへ５分間の交流をする。	１回目と２回目の間に教師が評価・助言をする。	①グラフや表を説明するときの４つのポイントを押さえ，資料と意見の整合性を判断し，適切に助言させる。
３.「なか」の文章を書く。	メモや話し言葉ではなく，読み手に伝わる書き方を確認させる。 前時に使用したモデル文を参考にさせ字数・構成・指示語などを確認させる。 書き終えた児童には，自分で推敲させる。（誤字脱字・主述のねじれ・４つのポイント） 書き終えた者同士で読み合う。	【書】自分の考えの根拠となる事実を表す図表やグラフを用いて，自分の意見が説得力をもって伝わるように書いている。（原稿用紙） ②二人で助言し合ったことを参考にして文章を再構成し書かせる。 ③友達の文章を読み，４つのポイントを確認して読み助言させる。
４．学習のまとめをする。	４つのポイントを押さえて，「なか」の文章を書くのに友達の助言が役に立ったか意見を出し合う。	

◆協議の視点

今回の授業での提案

①授業形態での工夫

・書く領域の中で，書く力（記述力）を高めるための交流（話す・聞く）を入れた。話し合いは効果的であったか。

・「ペア学習」においてＡ→Ｂの交流の後，教師の評価と助言を入れＢ→Ａの交流をさせた。児童が，２回目の交流において，教師の助言を生かしよりよい話し合いができたか。

②思考力，判断力，表現力等を育む場面の工夫

・この授業では，具体的に，交流の場面　書く場面　推敲の場面において，思考力・判断力・表現力等を育む活動を取り入れた。

本教材は今回の学習指導要領改訂に伴う新教材である。本単元では，直前の説明的な文章「天気を予想する」での学習を踏まえながら，自分の考えをわかりやすく読み手に伝える説得力のある文章を表やグラフを利用して書く学習が設定されている。指導者は，児童が直前での学習を踏まえて応用する活動で思考力・判断力・表現力等を育成することを考えた。

指導者は，以下の４つのポイントを押さえて，表やグラフを利用して意見文が書けるように学習を進めた。

①何を表す表やグラフなのかを，まず述べる。

②どのように示されている表やグラフなのかを説明する。

③注目する言葉や数字を示す。

④注目する言葉や数字が何を意味するかを示す。

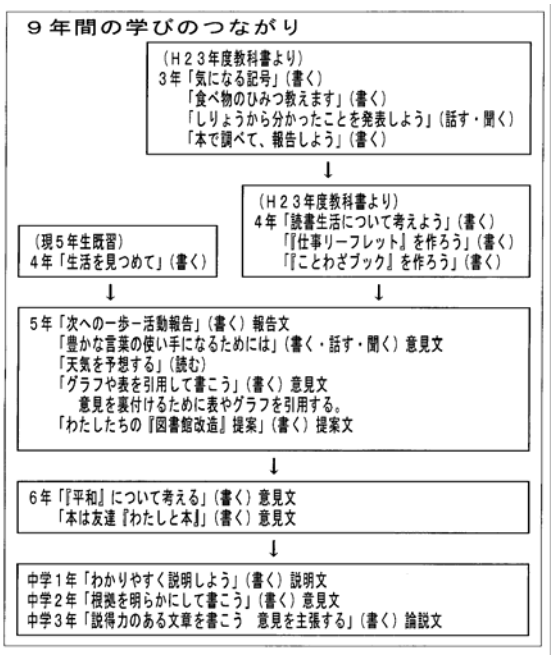


図５　中学校国語科とのつながり

意見文のテーマについては，児童に基礎知識がある方が取り組みやすく，つけたい力も達成できると考え，総合的な学習の時間に学習した環境・防災・福祉の分野から選択させた。初めから明確な意見がなくても，資料を検討したり，調べたことを文章にしたりするうちに，自分の考えがはっきりする。また，友達と考えを話したり，聞いたりするうちに，自分の考えを深めることができる。そこで，下書きの段階から４つのポイントを踏まえた資料の読み取りについて児童に二人組で助言し合わせる手立てを考えた。

また，本単元については市町村の国語科における小中一貫教育部会の協力を得ることができた。**図５**は本単元と中学校国語科の単元とのつながりを整理している。

イ　アンケートから

Ｄ地方での講座終了後の研修内容に対する受講者の評価は表４のとおりであった。

表４　Ｄ地方での研修内容に対する評価

	Ａ	Ｂ	Ｃ
研究授業	１２	２	０
研究協議	１２	３	０

Ａ：研修内容はあなたの期待や必要としていることに十分あっていた

Ｂ：研修内容はあなたの期待や必要としていることにあっていた

Ｃ：研修内容はあなたの期待や必要としていることにあまりあっていなかった

表４からは，研究授業及び研究協議に対する評価が高い。これは受講者が授業研究の機会を得たいと感じていると考える。

研究授業については，次のような感想

が見られた。

＊難しい内容の授業を子どもたちの交流を生かして組み立てているところが大変よかった。書き方のポイントや型を示すことで多くの子どもが書けていた。

＊記述力（書くこと）を高めるために，友達との交流（話す・聞く）の活動を入れたことにより，友達同士の助言で文章がよくなっている子どももいた。（文章の）型を示していたので，なかなか書き始めることができない子どももスムーズに書くことができたのではないかと感じた。

＊グラフを読み，（自分の）意見について根拠をもって文章を書くということは，難しいようでした。小学校５年生から，このような力がつけば中学校の学びに必ずつながると思います。

＊自分の伝えたいことを説得力をもって伝えるためには，どのような場やどのような手立てが必要か，いろいろ考えさせられました。

受講者からは，文章を書く前にグラフや表を利用する根拠について話し合わせる活動が思考力・判断力・表現力等を育成するための指導につながる取組であるということや文章を書かかせるための手立てについて評価が高かった。

次のような感想も見られた。

＊つけたい力について，さらに深めるために二人組での交流は有効で思考力・判断力・表現力等の育成につながるとの意見も出た。

＊書き方の指示がわかりやすく，児童が取り組みやすかった。テーマの設定やグラフや図の選ばせ方について意見の交流をした。

＊授業を通して，「(児童が）書くための手立て」「(児童が）意見交流するための手立て」等指導のポイントが確認できてよかった。

＊思考力・判断力・表現力についても具体的に指導する方法がわかりました。

４　まとめ

（１）成果

４地方での研修講座の開催を通して，明らかになった思考力・判断力・表現力等の育成の指導の手立てについて示す。

Ａ地方では，書く活動を行う際，学年に応じたワークシート集によって各学年の系統的なつながりを考えた学習を学校全体で取り組んでいた。

Ｂ地方では，段落のつながりを強く意識させるワークシートを使用し，個人→グループ→全体と考え方を広げていた。

Ｃ地方では，教材文と図表やグラフの関係を指導者の自作のグラフとの比較で考えさせた。

Ｄ地方では，書く活動のために，ポイントを踏まえた資料の読み取りを児童二人組で行わせた。

４地方それぞれに大変工夫がこらされていた。

（２）課題

研究協議において「指導については交流の難しさを感じた」や「すぐには成果が見えにくく，大切だとは思いつつも取組難い」等の感想が見られた。このことから，思考力・判断力・表現力等の育成については，具体的な共通のイメージが持ちにくく，課題を共有できないのではないかと考える。そこで，さらに研究を進め，わかりやすく，受講者が取り組んでみようとする研修にしていく必要がある。また，研修の運営についても工夫が必要である。そのためにも教育支援事務所や市町村教育委員会と効果的に連携していく方法を今後も探っていく必要がある。

＜引用文献＞

※１　文部科学省『小学校学習指導要領』p. 13 (2008)

※２　文部科学省『小学校学習指導要領解説』pp. 1-2 (2008)

※３　『国語 五 銀河』光村図書 p. 132 (2011)

＜参考文献＞

・『国語 四下 はばたき』光村図書

・『国語 三下 あおぞら』光村図書

・『国語 一下 ともだち』光村図書